

届け、みんなの声

神戸市会



- ・発行／神戸市会
- ・発行会社／(株) POTETO Media
- ・イラストレーター／kazoo
- ・イラスト・デザイン協力会社／(株) i and d company

あるところに、いろんな動物たちが住む
まちがありました。

毎日、まちの公園でみんなで遊んで、
楽しく過ごしていました。

公園には滑り台とブランコがありました。
でも、両方とも古くて壊れていて、
動物たちはもう遊べませんでした。

うさぎは滑り台が大好きでした。
でも、壊れた滑り台は危なくて遊べません。
「誰か直してくれないかな」



そんなことを考えていると、
友達がやってきました。

「僕はブランコを直してほしい」

「私は、背の高いジャングルジムがほしい」

「鉄棒があったら、さかあがりの練習ができるよ」

「車いすでも届く砂場があったら、

私も遊べて嬉しいわ」

「サッカーをしたいから、

芝生の広場があったらいいな」

「野球ができないかな」

「公園は広くないから、あぶないかも」

「公園って、誰に頼んだら直してくれるのかな？」

みんないろいろなことを話し合いましたが、
意見がまとまりません。

誰に頼んだらいいのかもわかりませんでした。



そこへ、やさしそうなウシのおじさんが
やってきました。

「どうしたんだい？」と聞きました。

うさぎは思い切っていました。

「滑り台とブランコが壊れて、もう遊べないの。

新しい遊び道具も欲しいけど

意見もまとまらないし、誰に頼んだらいいのかわからないんだ。」

ウシのおじさんはうさぎが困っているのを見て、
優しくアドバイスをしました。

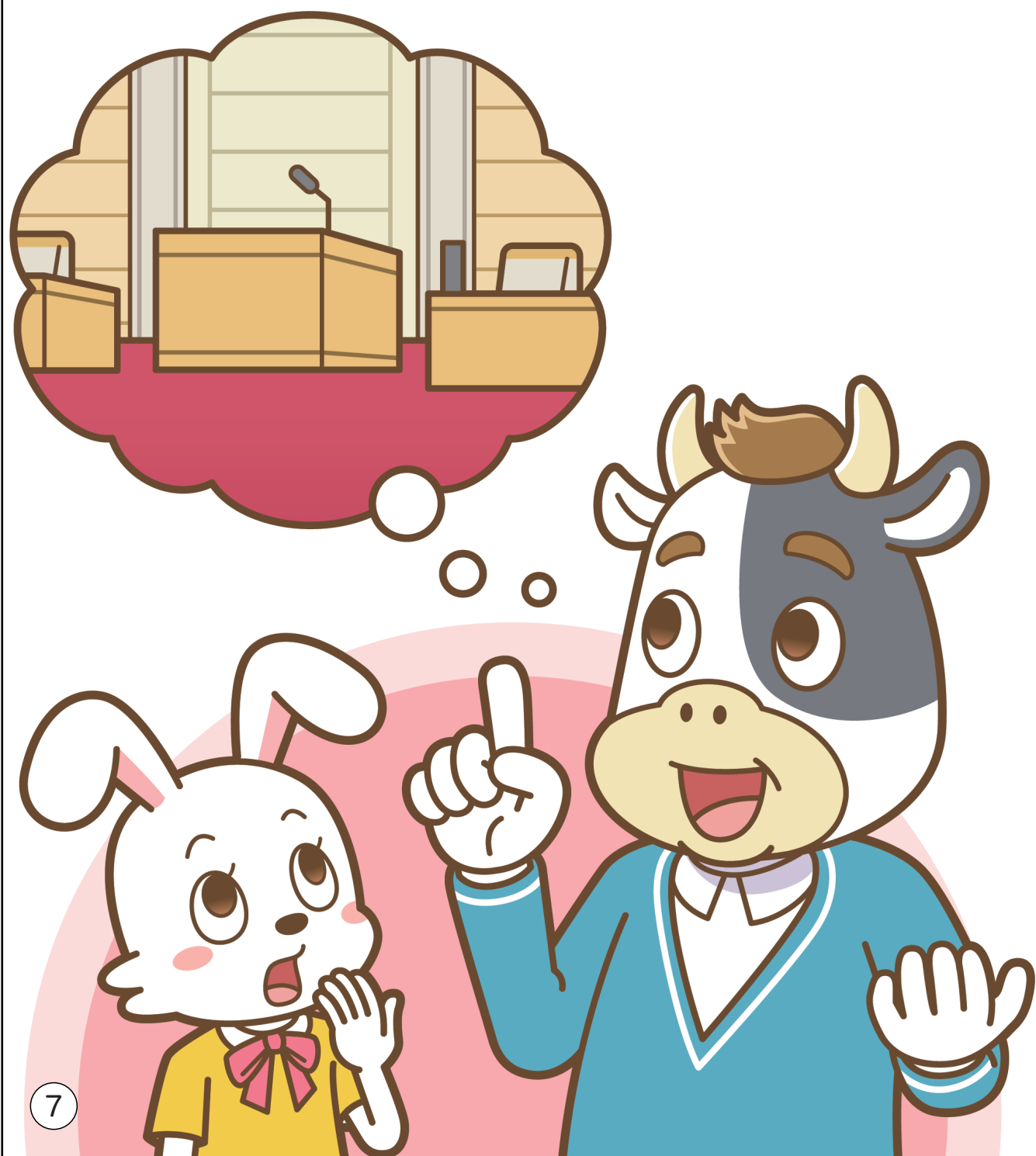
「それなら、まちのみんなで話す場所に行ってみたらどうだろう？」

「みんなで話す場所って何？」

うさぎが聞きました。



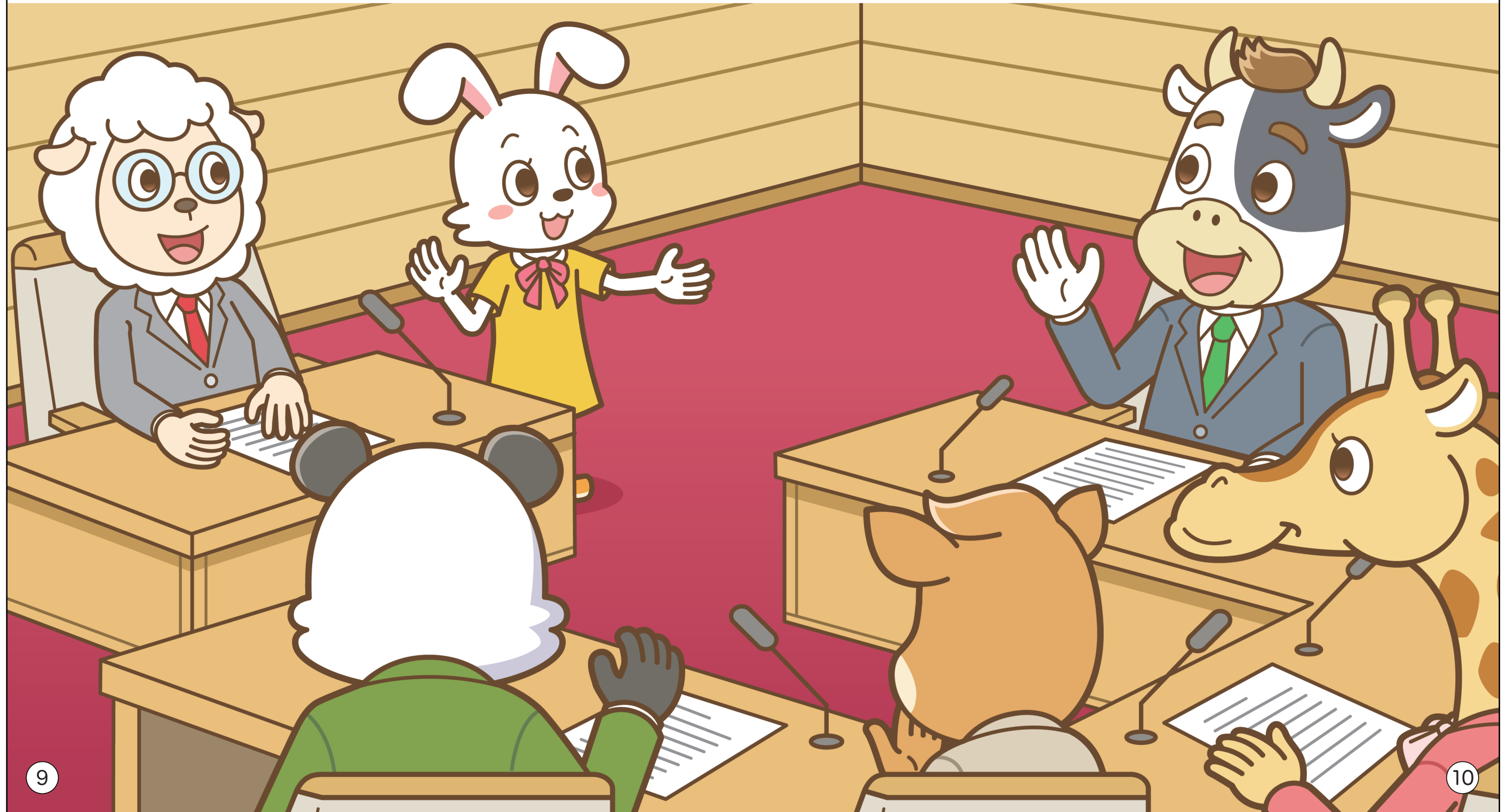
ウシのおじさんはやさしく説明しました。
「まちのみんなを代表する動物たちが集まって、
どうすればまちをもっといいところにするか
考える場所だよ。」



「まちを代表・・・？」
うさぎは、意味がよくわかりませんでした。が、
ウシのおじさんを見て思いました。
よくまちを散歩しているおじさんだな。
そうだ、きっと頼りになるはず！

次の日、うさぎはウシのおじさんに連れられて、
みんなが話す場所に行きました。
イヌやシカ、ヒツジなど、
いろんな動物たちが集まっていました。

うさぎはちょっと勇気を出して、
遊び場の滑り台とブランコが壊れていること、
新しい遊び道具や広場が欲しいことを話しました。
みんなは、じっとうさぎの話を聞きました。



動物たちはみんなで話し合いました。

「全部の遊び道具を設置するのは
難しいでしょうか」

「安全に野球やサッカーができるような
工夫が必要ですね」

「車いすでも遊べる高さの砂場を
作ったらどうでしょう？」

そして、イヌが言いました。

「どうですか、ヒツジの市長。
みんなの希望ができるだけ叶うような公園に
新しくできないでしょうか？」

実は、ウシのおじさんやイヌなど、ここにいた大
人の動物たちは、まちで選ばれた議員さんたち
だったのです。

でも、みんな、子どもの自分の話も聞いてくれて、
一緒に考えてくれました。

「そうですね。公園が新しくなれば、
子どもたちはきっと喜んで遊ぶことが
できるでしょう。

公園にどんな遊び道具を作るのか、
サッカーや野球ができる広場を
どのように作るのかは、議員や市民のみなさんの
意見を改めて聴きながら考えてみます」



うさぎはとてもうれしくて、
今日あったできごとをみんなに伝えました。
動物たちはみんな、
公園が新しくなることが楽しみにになりました。



少し時間がたって、公園が新しくなりました。
みんなが待っていた遊び場の滑り台と
ブランコが、ようやく直りました。

新しい遊び道具もできました。
サッカーや野球もできるようになりました。

みんなは学びました。

みんなの声が大切で、
それがまちをもっと楽しく、
もっと素敵な場所にするんだと。

これからもまちは、もっともっと楽しい場所にな
っていくことでしょう。



メモ

なまえ
